《目　　次》

1　具体的実践の概要……2
（1）実践の背景……2
（2）具体的実践の概要……3

2　実証的共同研究の趣旨……3
（1）拠点作り事業……4
（2）お宝探し……6
（3）お宝マップ＆お宝集作り……7
（4）きらり・かねやまご当地試験問題作りと仮試験実施……7

3　実証的共同研究結果の概要……8

4　実証的共同研究の成果と今後の課題……15

5　委託事業の評価（総括的）……15

参考資料：きらり・かねやま協議会委員……16

1　具体的実践の概要

（1）実践の背景

金山町は自然豊かな中山間地に位置し、四季折々奏でる情景は住んでいる人々は勿論のこと訪れる旅人に澄み切った癒しの空間を与え続けている。

明治時代、英国の探検家イザベラ・バードは、金山町の白壁の落ち着いた佇まいと人々の温かさに触れ、「ロマンチックな町」と表現した。町では、この景観を未来に伝えていくための街並みづくり 100 年運動を進めてきた。

しかし、山形県では全般的に少子高齢化が進み、65 歳以上の高齢者世帯が増加している。特に、金山町を含む最上地域は中山間地域が大部分を占め、農林業が主要な産業であることからこの傾向が特に顕著である。このような地域では、都市部に比べ、「学校」の存在が地域に与える影響が大きい。金山町では、本校に通えない子供のため、各地に分校の存在が地域に与えるところが多く、住民から見れば地域社会のシンボルでもあった。しかし、少子化による学校の再編・統合は地域住民の交流拠点の役目を果たしてきたこの分校を奪い、「地域力」の低下にさらに拍車をかけることとなってきた。

中山間地域の活力再生のキーワードの一つとして、人と人とのつながりである「連結力」が上げられる。何かをきっかけに、地域住民が集い、共に地域を想い、共に活動する。家族間のつながりや世代間のつながりが人間関係を紡ぎ、地域活動にもう一度息を吹き込む。地域の伝統文化を共に伝承し、共に集落を維持する。若い者は年長者を敬い、教えを請う。地域社会の一体感が生まれ、活力再生へ歩み出すことになる。

そのきっかけとなるのは、地域の持つ自然、文化、歴史などの価値をあらためて見直してみる「地域資源の再発見」の過程である。地域の良さや地域資源を住民自らが探し出し、地域の活力再生に結びつける活動を行うことは、地域力の向上につながる。

金山町でも、分校を地域名産のそば店として改装し県内外から多くの観光客を呼び込んでいる地域、分校の教育資産を活用して教育資料館として整備を図った地域、分校を拠点に地元学の手法で地域の宝ものを再発見し住民の結びつきを取り戻した地域など、いくつかの地域で、地域資源を活用した地域活性化に成功している。

このように成功を収めた地域コミュニティは、分校を拠点とした活動が展開されていることが多い。地域の伝統的な食文化を継承したり、地域の祭りを再興したりといった活動は世代間交流を生み出す。中山間地域の衰退は、少子高齢化と過疎化に伴って、こうした地域の行事と、それを行う時間的・空間的な「場」を喪失したことに起因しているため、地域活力の再興には、失われた地域住民交流の「場」と「種」を取り戻す必要がある。

⑵ 具体的実践の概要

本共同研究事業では、中山間地域において、地域住民が自らの手で地域に活力を生み出し、次代を担う子供たちの育成のために、再び地域の教育力を活性化していくため、金山町教育委員会と地域づくり団体が連携して「きらり・かねやま協議会」を設置し、地域の公民館及び廃校となった各地の旧分校を交流拠点とした「地域活性化プログラム」を開発し、全国の中山間地域のモデルとなる実践プログラムを構築するとともに、その

成果と手法を町全体の共有資産とし、金山町全体で地域文化を基礎とした地域の教育力強化を図るものである。

（協議会開催時）

２　実証的共同研究の趣旨

今回の文部科学省との共同研究は、地域の教育力強化を図る目的で行われた。少子高齢化に伴う地域の人口減少は今後も加速度的に進むことは確実で、それに伴い地域コミュニティの希薄化、地域の伝統文化等の継承問題など、これまで営まれてきた社会生活が限界集落という語彙に象徴されるように破綻されようとしている。そこでまだ地域に余力があるうちに地域のつながりや世代間の交流を促し地域コミュニティの再生を図ることを目的にこの活動を行った。

金山町は金山地域、東郷地域、西郷地域、有屋地域、中田地域と大きく５つの地域に分けることができ、そこでの地域単位でのまとまりは主に小学校や旧分校といった単位であり、特に近年では分校が廃止され町中心部の金山小学校に統合になった経緯がある。前述したように、その廃校になった分校を地域住民の手で再活用しているケースが多く見られ、また逆に廃校をきっかけに校舎への想いから地域がまとまっていったこともある。

東郷地域では、田茂沢分校を地域コミュニティ再生の場として、町外者（山形大学学生）との交流を元に地元の伝統行事や料理などの地域資源開発を行っている例。

西郷地域では、谷口分校を地元の人たちが「がっこそば」として蕎麦屋の経営を行ったり、県外者との交流事業である「四季の学校・たにぐち」を年に４回開催しその都度約 40 人前後が多くは宮城県などから訪れ、いわゆる田舎体験をして交流している。これら谷口の活動は 10 年以上続けられており、全国からも地域再生などの成功事例として注目を集めている。

また、同じ西郷地域にある朴山分校では、教育文化資料館として、学校の古き良き時代の教材や道具などが展示されている。こちらも朴山地域住民の強い要望もあり、地域住民が運営委員会を立ち上げ旧朴山分校の利活用などを模索している。

このように、廃校になった分校すべてではないが、地域住民は地域の思い出の場の確

保として、また地域コミュニティの拠り所として分校を残すことを強く希望し自ら活用している。

それらの活動を一部の地域だけにとどまらず、町全体に広げ、地域の教育力の強化と活性化の拠点作りを図るべく（1）拠点作り事業（2）お宝探し（3）お宝マップとお宝集作り（4）きらり・かねやまご当地試験問題作りと試験実施と４つの事業を進めた。

（1）拠点作り事業

【中田地域カルバート壁画制作事業】

分校がもともと存在せず、それぞれの地域にある小学校区を範囲とした中田地域・有屋地域において、新たな拠点作りとしてカルバート壁画作成や彫刻の設置を行った。

まず、中田地域のカルバート壁画事業だが、こちらは平成 20 年に完成した国道 13 号新主寝坂道路開通に伴い、その道路下のトンネル（カルバート）に子どもたちが中心となり、中田地域の思い出を残す事業として、郷土愛を育て地域の絆を深める事業として壁画を作成するというものである。

以前は山形から秋田への主要道路として国道 13 号は中田地域の中心を通っていたが、主寝坂トンネルの老朽化や道路の急傾斜等の事情により中田地域の中心を通らず、バイパスを作り通行がしやすくなった。それに伴い、中田地域では道路の用地買収や中心地への交通が減ったことなどにより、地域を出ざるを得なくなった人が増えた。そのため、中田地域の人口が減少し、現在の小学校の児童も全体で 18 人となっている。

そのような状況があり、中田地域の児童や住民に郷土愛につながり心のよりどころになる事業、思い出の残る事業をと考え新主寝坂道路のカルバートに壁画を作成することとなった。もちろんこの事業をきっかけに子どもたちや住民を巻き込み改めて自分たちの地域のよさやお宝を再発見してもらうことが目的で進められた。

山形大学地域教育学部の先生や学生らに協力していただき、4月から中田小学校の児童や保護者らと話し合いを持ち、何を描くかを検討した。その結果、中田地域の四季折々の風景と行事を描くことが決定し、8月から大学生が中田地域内の上中田地区にあるカルバートへ壁画作成を始めた。壁画は学生たちが児童たちへのアンケートなどを元にデザインを作成し、それを元にカルバートへ下絵をし、色塗り作業は夏休みを利用し子どもたちと一緒に行った。

（大学生と中田小児童の壁画共同作業）

そして 10 月初旬、幅 21 m、高さ 1.8 mの巨大な壁画が完成し、同月 21 日に地域住民の皆さんや関係者を招待し完成除幕式を行った。除幕式の中で児童代表として６年

生の柿崎悠馬君は、「この壁画は、中田の人たちの心を結ぶ、大切な宝物」としてあいさつを行った。その言葉どおり、今後この壁画づくりを通して行ったことが子どもたちや住民の心の拠り所としての拠点となっていくであろう。

（壁画完成除幕式）

【有屋地域風の丘公園彫刻モニュメント設置事業】

続いて行ったのが有屋地域の拠点作りとして、同地域にある大清水川公園（通称風の丘公園）への彫刻モニュメントの設置事業である。有屋地域においても分校は存在せず有屋小学校が一つあり、そこが地域の拠点となっている。有屋地域には県や町の施設が多数あり、スキー場や温泉施設、県民の森など町の観光地域の一つとしてにぎわっている地域でもある。しかし人口減少率は他の地域よりも大きく今後の児童数の減少などが懸念される。

そこで、有屋地域の憩いの場として平成 20 年に完成した風の丘公園に、もっと人々が集まりやすく交流しやすい場所にしようと、公園内に彫刻のモニュメントを設置した。東北芸術工科大学院卒の藤沢恵氏の作品で二科展でも入選しているものである。

協議会の樋口代表と協議会の委員であり、かつ有屋地域区長会会長の三上一雄氏、有屋地域の町会議員柴田清正氏らでこの公園への設置に当たりそれに見合う作品を選定したものである。作者の藤沢氏からは、この作品を通して子どもたちの教育に少しでも役立てればという思いをこめて設置していただいた。

（藤沢氏と有屋小児童との交流）

この作品を設置するに当たり、地域の多くの方々に手伝ってもらい設置作業に携わってもらった。また作者の藤沢氏と地域の子どもたちが一緒になって設置場所を決めるなど、住民の方々、子供たちがこの作品の完成に大きく関わった。

その後、作り上げた作品を通して子どもたちに芸術と地域の公園との一体さを身近に感じてもらおうと、藤沢氏の師である芸工大教授の前田耕成氏によるペーパーウェイト作りを開催した。彫刻作品と同じ石を使った作品作りで、子どもたちはより身近に彫刻作品を感じることができ、また有屋地域内の公園に設置されたことでそこを拠点として作品に触れ、地域をよりよく考える機会になったと思われる。

そして11月21日には地域住民や関係者を呼び完成除幕式を行った。これにより子どもたちだけでなく、地域住民も彫刻作品を通して有屋地域の新たな拠点として認識されたのではないかと思われる。

（風の丘彫刻完成除幕式）

⑵ お宝探し

地域の教育力の向上の方法として、拠点作りのほかに今回のプロジェクトでは、各地域のお宝探しを実施した。お宝探しは今住んでいる地域にある財産を掘り起こし、気づかなかった地域のきらり（宝物）を探し出し、あらためて認識してもらうという意味がある。地域の自然や伝統文化など当たり前のようにあったものをもう一度お宝として地域住民に認識してもらう。また地域だけでなく町全体としてそれらを共有し財産として冊子にまとめるという事業である。

（きらり・金山講座）

これらは、「きらり・金山講座」という公民館講座の受講生が中心となり、講師である山形大学人文学部准教授下平裕之氏と共に各地域を回ってお宝探しフィールドワークを行った。すべての地域を回ることはできなかったが、東郷地域の岩円地蔵

や有屋地域の大美輪の大杉など、町の観光スポットとして知ってはいたものの初めて見たという人もおり、あらためて町の魅力に気付いたという発見があった。

また、このフィールドワークのほかに毎回講座ごと各々で持ち寄ったお宝についての歴史や意味などを調べる作業が行われ、受講者以外にも各区長始め一般住民の方々からも集めたお宝を編集し、全部で 130 余りのお宝が集まった。

⑶ お宝マップ＆お宝集作り

上記で集まった 130 余りのお宝を地域ごと分類ごとにまとめ、それらから 30 個を厳選し金山のお宝マップとお宝集作り作業を行った。これは、広く町民や町外の方へあらためて町のお宝として認識してもらい、自分たちの地域にある身近な存在に光を当てることでもう一度再発見してもらいたいというねらいがある。各地域のどの位置にあるのか、またそれらはどんな歴史や伝統があるのかなどわかりやすく示せるようにマップとお宝集を作成した。お宝の選定作業に当たっては、地域性や注目度などを考慮して選定し、きらり・かねやま協議会において認定された。マップの作成に関しては、技術的な支援として金山地域在住の阿部俊之氏に協力してもらった。

もちろんこの他にもお宝はたくさんあり、集まったすべてのお宝をお宝として認定し町内外へ示すことも検討されたが、今回はわかりやすくするため 30 個に絞りまとめたところであった。他のお宝は第２弾３弾と続けて、料理編や行事編などに編集して作れればと思っている。

⑷ きらり・かねやまご当地試験問題作りと仮試験実施

「きらり金山講座」において、お宝探しのほかに、そのお宝を基にした問題集作りも同時に行った。こちらはその問題集を基に「きらり・かねやまご当地検定試験」を実施することを目的に行われた。お宝探しだけで終わるのではなく、それを踏まえて問題集を作ればさらに知識や郷土への愛着がめばえるのではないかと思われる。

山形大学の下平准教授のアドバイスの下、こちらも 150 問ほど作り上げた。問題のキーワードを決めたり、問題文にどれだけ知識を盛り込むかなど思っていた以上に大変な作業ではあったが、なんとか作り上げることができた。

そして、その問題集を元にご当地検定試験を行った。まだ大々的に町内外へ発信して行うことはせず、関係者（協議会メンバー、講座受講者等）に向けて仮の検定試験を実施した。この仮検定試験の結果を元に検定試験のあり方や問題のレベルなど意見を伺うことで、予定としては 23 年度に本格的に全国に向けて情報を発信し検定試験を実施するつもりである。

検定試験を行うことは、自らの地域にあるお宝をクイズ形式で問うことで地域への興味の喚起と地域の価値の再発見をしてもらうねらいがあり、それを契機に地域の活力の再生につながり、地域の教育力の向上につながることを目指している。

また、東郷地域にある道草ぶんこうでは、独自に東郷地域ご当地検定試験を実施する準備も進められている。こちらは道草ぶんこう運営委員のメンバーが中心となり、東郷地域の魅力を外部者（山形大学学生中心）と一緒に探し、地域住民を巻き込んで検定づ

くりを実施している。地域住民が気付かないお宝に注目し、ホームステイを通して住民と交流を図り、伝統行事や料理などに光を当てそれらを復活させたり再興したりしている。実際に近年は行われなくなった「なし団子祭り」という正月行事も時期は違うが、道草ぶんこうの体育館にて地域住民と大学生とで数年前から復活し地域をあげてにぎわっていたり、普段食べている料理なども外部者（大学生）にとってはご馳走であり、感動を伝えることで地域住民は自信と誇りを持ち始めてきていることがうかがえる。地域住民は一人ひとりが先生となり大学生らに自分たちの普段の生活を伝え活き活きと暮らしている。この中で後ほど詳しく説明するが、外部者として町を見た場合の印象や課題などをアンケート調査も行った。こちらのご当地検定試験もやり方などを含め検討中であり、東郷のお宝探しをメインに現在は進められている。来年度以降問題作りと検定試験のあり方を大学生の力を借りて検討していくとのことである。

（地域住民と大学生たちとのなし団子まつり）

３　実証的共同研究結果の概要

本共同研究事業では，中山間地域において、地域住民が自らの手で地域に活力を生み出し、次代を担う子供たちの育成のために、再び地域の教育力を活性化していくため，文部科学省と連携しながら共同研究を進めてきた。

地域のお宝探しやお宝集作り、ふるさと壁画の作製、彫刻モニュメントの設置などを行い、地域活動の拠点、地域文化の拠点として、地域住民や子どもたちの活動や体験を通して、地域資源の価値を再確認し、地域の教育力向上を図った。

具体的には２月、文部科学省からも参加していただいてのお宝発表会＆検定試験の実施など、住民が主体となって進めてきた事業の検証を行った。その中で調査方法として町外者や地域住民へアンケート調査を行い、外から見た目と中から見た目を比較しそのギャップと今後の地域力強化の方法を探った。

アンケート調査は３回行った。まず町外者の視点として、東郷地域の道草ぶんこうへフィールドワークとして入っている山形大学の学生の皆さんに協力していただいた。それから一般町民への意識調査として、各地域のプロジェクトリーダーへお願いし、地域住民への調査を行っていただいた。その後お宝発表会と仮検定試験において、事前アンケートに答えていただいた方を招待し、実際に試験を受けていただいての感想を含めた事後アンケートを実施した。結果は以下のとおりである。

きらり・かねやまアンケート結果 【町外者】編

実施日：平成 22 年 12 月 12 日　10 名分

質問内容と回答	分　類
Q 1. あなたが金山町に来る前、町に対してどのような印象をもっていましたか？	
●豊かな自然 ●田舎の典型的な過疎化の進む里山 ●山の中 ●山が多い。自然が多く残っている ●建物が昔から変わらずに残っている町 ●自然が豊か ●事前にネットで調べた際、「四季の変化が明瞭な町」と乗っていたので、その印象があった （自然が豊という印象が圧倒的に多い。）	自然 過疎地 自然 自然 街並み 自然 自然
Q 2. あなたが金山町に来てから、そのような印象がどのように変わりましたか？また新たに感じたことがあればお書き下さい。	
●地域の方々の金山町に対する思い入れの深さ ●地元の人々に温かさ、共同体の深いつながり ●思った以上にきれい。自然が豊か。人柄がよい ●町の団結力が強い。食べ物がおいしい ●思ったより人口が少ない。農家がすばらしい ●食べ物（特にお米）がおいしい。人々が温かい ●秋と冬の金山町しか見てませんが、最初の印象通りでした （町民の人柄や食、地域のつながりを感じている。）	愛郷心 人柄・地域のつながり 自然・人柄 地域のつながり・食 人口減・農業 食・人柄 自然
Q 3. あなたが金山町に不足していると感じているものは何ですか？	
●文化を伝承し、外部に発信する機会 ●もし外部の人間を呼び込みたいのなら、商業的考え沿った地元アピールをもっとすべき ●店が近くにないこと ●他の町へのアピールをすること（珍しいものや貴重な生き物など） ●若者 ●生活するうえでは、ａｕの携帯の電波がない（不足している） ●交通手段（金山町へのアクセス）が貧しいと感じた （情報発信やインフラ整備が不足と感じている意見が多い。）	情報発信 情報発信 インフラ 情報発信 若者 インフラ インフラ
Q 4. あなたが金山町に期待するものは何ですか？	
●山形県外の地域への発信（全国の似た特徴のある地域と連携） ●なし団子祭りなどの昔からの伝統行事の保全。今のままの地元の人たちがいてほしい ●今後も祭り等を継続していくこと ●より多くの人が訪れて活性化すること ●自然が豊で、新しいものに捉われないままでいること ●地域の更なる活性化 ●郷土検定の内容の充実と成功 （伝統文化行事の保全や地域の活性化などに期待している。）	情報発信 伝統文化 伝統文化 地域の活性化 自然の保全 地域の活性化 その他
Q 5. 最後に、これが金山町の「お宝」だ！というものがありましたらお書きください。	
●外部から来た人に対する接し方のやさしさ、丁寧さ ●人柄・文化・祭り ●団結力。伝統的な料理や文化。建物などがあること ●地域の人々のつながり ●自然。伝統。人々の温か。歴史 ●料理と地域の絆 （人柄や地域のつながりという意見が多い。）	人柄 人柄・伝統文化 地域のつながり 地域のつながり 自然・人柄・伝統文化 地域のつながり

きらり・かねやまアンケート結果 【事業前】編

実施日：平成 22 年 12 月 21 日～平成 23 年 1 月 15 日　24 名分

Q 1. あなたが現在住んでいる地域に対してどのようなイメージを持っていますか（3 つまで選択）

住みにくい	1
寂しい	6
暗い	3
自然が豊か	20
食べ物がおいしい	8
街並みがきれい	7
地域のつながりが強い	11
行事がたくさんある	4
何もない	1
その他	0
計	61

「自然が豊か」、「地域のつながりが強い」、「食べ物がおいしい」、「街並みがきれい」という順番で、否定的な意見は少なく、比較的満足度が高いと思われる。ただ、人口減少に伴い地域の活力が昔ほどなくなってきたためか、「寂しい」と答えた意見も多くあった。

Q 2. あなたが現在住んでいる地域に対して誇りに思うことは何ですか（3 つまで選択）

神社仏閣	4
街並み	8
伝統芸能文化	8
自然	15
食べ物	5
地域のつながり	12
何もない	2
その他	0
計	54

「自然」、「地域のつながり」「伝統芸能文化」「街並み」という順番で、自不文たちの地域の身の回りにあるものを誇りに思っている様子が伺える。

Q 3. Q 2 の回答に対して、具体的にどのようなものですか

- 囃子の伝承
- 焼失してしまった八幡神社。境内の大杉
- 山菜がすぐ側で採れる。新緑・紅葉、雪景色が美しい
- 金山町住宅が多くなり美しい景観になっている。水、空気がきれいですがすがしい感じがする。
- 街並みがきれい
- 昔と違い今は商店も淋しくなりました。若い人たちが商店のことをあまり考えなくなり、夕方になると道路が暗く淋しくなりました。
- 神社仏閣等の建築物は高い評価をされ、誇れるものだと思う。
- 自然が豊なので山の物、畑の物が豊富。いろいろな料理も考えられ、食べ物がおいしい。なにかあったら助け合う精神が根付いていると思う。
- 豊かな自然。地域の人たちで守っている伝統行事
- 伝統芸能の番楽。子どもから大人まで、色々な面で地域のつながりが強い。
- 山、川
- 山や川があり自産、自消が良い。地域のボランティアが強い。
- 番楽、歴史ある峠、組織活動
- 稲沢地区、柳原地区に伝わる番楽など。
- 下向祭。神室ダム。お日待ち講。雪。
- 竜馬山や神室山また小さな山々と色々な建物、施設が調和して美しい。
- 金山住宅で統一されているところなど、街並みがきれい
- 他町村から来た人からきれいと言われる。ボランティア、地区行事への参加を通じて地区、地域とのつながりが多くなる
- 縮小縮小とされていって人から人へ伝えられて教えられてきたことがなくなっていくように思う。
- 伝統料理がたくさんある

Q 4. あなたの地域で不足しているものは何ですか（3 つまで選択）

インフラ	2
働く場	20
地域とのつながり	0
若者	12
店	9
活気	3
情報発信	3
特にない	0
その他	3
計	52

「働く場」や「若者」「店」というように地域経済に起因する回答が多い。

Q 5. 今現在住んでいる地域に対して期待するものは何ですか（3 つまで選択）

インフラ整備	2
人口増	12
経済活性化	11
伝統文化芸能の継承	5
街並み整備	0
移動手段充実	5
助け合い	9
町外者を増やす	7
特になし	1
その他	1
計	53

「人口増」「経済活性化」「助け合い」という順番から、地域の人口減少に対しての警戒感が見られる。

Q 6. これが地域の「お宝」だ！というものがありましたらお書き下さい

- 格別何もないこと
- 高堂山から見る景色
- 地元に小学校があること。故郷壁画。高堂山
- 自然。街並み。人柄
- 古い土蔵を改修して造った「蔵史館」、金山杉をふんだんに使用した屋根付き歩道橋「きごころ橋」、大堰、街並み
- 自然。金山杉。歴史的建築物（長屋門）等。食べ物家さんが多い（ラーメン等）
- 美しい自然。人と人との良い関係のつながり
- お宮、山（2 つ）
- 歳灯。神室ダムのホタル。
- 子供たち。少子化で数少なくなった子供たち貴重な宝物。地域みんなで育てていかなければならない。
- 都会にはない田中の地域のつながりが強いことが「お宝」だ思います。
- 隣近所。地区の人を始め人的交流
- 稲沢番楽、大堰、伝統料理

きらり・かねやまアンケート結果 【事業後】編
実施日：平成 23 年 2 月 18 日　11 名分

Q 1. 試験のレベルはどうでしたか？

難しい	0
やや難しい	3
普通	5
やや簡単	2
簡単	1
計	11

全体的に普通レベルの問題であったようだが、受検者はきらり金山講座受講者が多かったので、やや簡単に感じられたかもしれない。初めて挑戦する人にとってはこれぐらいがちょうどいいのかもしれない。受験人数が多ければもう少し難しい問題も作り差を出す必要も考えられる。

Q 2. 試験を受けてみての感想は？

- 歴史の問題などは全然わかりませんでした
- 意外にわからないものがあり、自己啓発ができてよかった
- おもしろかったです。
- 町史は若い人には難しいと思いました
- 金山に住んでいれば簡単な問題も多かったが、知らないこともいろいろあると感じました。
- 関心がある方（金山の歴史等）にとっては情報を得られいい問題。広い範囲を考えたとき難しいかな？
- 金山についてよくわかる
- よかった
- 年代別につくると良い。知っていたつもりですが正確にわかった
- 金山に住んでいる人は興味があると思うが、他市町村又は他県の人たちにはどれほど興味が持てるか？

Q 3. 検定試験を受けてみて、町に対するイメージは変わったか？

変わった	6
変わらない	5
計	11

約半々の結果だが、問題作りに携わった人が多い中での結果なので、もっと多くの町民や町外の方へお宝集の配布や試験の実施を行えば効果は違ってくるものと思われる。

かわった理由：

- 歴史のある町、全国的にも珍しい町と感じた
- 気づかないことがまだまだある
- あらためて考えることになった
- 町の建物の意味を知ったため
- 町のことを理解が深まった
- 興味がでてきた

Q 4. 今後の検定試験のあり方について何かアドバイスがあればお書きください。

- 今は 150 問ほど問題があるとのことなので、今後はさらに増やしてもらえばいいと思いました
- 地域づくり、交流にも結びつけるように
- 地区の情報発信
- 検定試験前に町について学ぶ機会を設ける（散策など）
- 問題の傾向ごとの順番をはっきりさせたい
- 問題がわかりやすくてよい
- 年代別につくるとよい
- まだまだお宝はあると思う

※その他として、当日会場で出た意見
○ 初級・中級・上級レベルとわけたらどうか
○ 食べ物編、歴史編など部門で分けて試験するのもおもしろい

Q 5. 今現在住んでいる地域に対して期待するものは何ですか（3 つまで選択）

インフラ整備	2
情報発信	6
人口増	4
経済活性	2
伝統文化芸能を守る	7
街並みを整える	3
移動手段の充実	3
助け合い	2
町外者を増やす	1
特になし	0
その他	0
計	30

「伝統芸能を守」「情報発信」「人口増」の順番から、地域にあるものを見つめなおし、それを発信していくことが重要であると伺える。

Q 6. これが地域の「お宝」だ！というものがありましたらお書き下さい

- 料理・街並みそのもの、稲沢番楽
- 人のあたたかさ
- 静かなところ（春は昼寝がしやすい）、ダム
- 人と人とのつながり、助け合い

【まとめ】
以上のアンケート結果から

外部者からみた金山の印象と町民が感じている印象はそれほど違わないように感じられる。自然の豊かさや街並み、地域のつながりなどのよさは町民も感じていることから比較的金山に住んでいることへの満足感が伺える。ただ、人口減少や地域経済の衰退などの影響もあり全体的に活気がないと答える意見もあった。

現在の金山町に不足している点としては、特に外部者の意見で多かったのが「情報発信」である。金山にはたくさんいいものがあるのにそれをもっと自信を持って発信することが重要と答える意見が多くあった。町民への事前アンケートでは不足しているものとしては「働く場」や「店」「若者」といったように地域経済に関する回答が目立つ。やはり生活面での環境整備に対する意見が多いことが伺え、外部者から見た意見と違う結果が出た。

今後に期待することとしては、外部者では「伝統文化行事の継承」や「地域の活性化」が多く、町民では「人口増」や「経済の活性化」といったやはり地域経済の活性化に主眼が置かれていることが伺える。しかし、人口の増加や経済の活性化などは行政の主導や社会変化による要因が大きいためそこの満足度を満たすのは難しい。地域の教育力の強化を図り地域の活性化を促すには、やはり外部者からの意見のように伝統文化や地域のつながりなどの継承やそれらを外に発信することが重要と思われる。

このことは、事後アンケートにおいて町民の方々からの意識の変化が見て取れる。お宝集や検定試験を受けた後では、今後に期待することということでは経済の活性化などの意見よりも「伝統文化芸能を守る」や「情報発信」という意見が多かった。そのようなことからもこれから重要になってくるのは、地域の伝統文化芸能・行事（＝社会活動）の維持と継承、それらの情報発信と考えられる。このお宝探しと問題集づくりは、あらためて自分たちの地域を見つめなおすきっかけとなり、また情報発信の手段としても有効だと言える。

４　実証的共同研究の成果と今後の課題

このきらり･かねやま協議会における今回の文部科学省との実証的共同研究においては、地域の教育力強化として町内各地域への拠点作りとお宝探し、それらをお宝集と問題集にまとめご当地検定試験を実施するところまで行われた。拠点作りとしては、それぞれの地域で子供たちを中心にその制作・設置作業に携わり地域を巻き込んで行われ、新たな拠点として認識され交流が生まれたのではないかと思われる。またお宝探しに関してもすべての地域を回ることはできなかったが、参加者からは新たな発見や改めて知ったことなどがあり、より地域を、金山を知るきっかけになった。お宝集作りや問題集作りも自分たちでそのお宝について調べ、問題を作るという作業を行ったことで、より深く地域の特性や歴史などを認識することができた。

これら一連の作業は、より地域を知る機会と町内外への情報発信の手段として有効であり、また町民にとっても新たな発見や自らの地域を見つめなおすきっかけになった。今回の実証的共同研究においては拠点作りのほか、お宝集の制作もすることができ、町内外に向けた取り組みとして一定の効果はあるのではないかと考えられる。

今後の課題は、これらをきっかけにし、拠点ごとに世代間を越えた住民参加型のお宝探しを実施し、それらを第２弾３弾とお宝集を作成することで更なる地域力の強化につなげていくことと考える。またご当地検定試験も今回の仮試験を踏まえ、来年度は全国に向けて情報発信をして町内外から受験者を募り行う予定である。今回作成したお宝集はそのときのテキストとしても使用できるように作っており、受験者には１部配布することも考えている。もちろんお宝集のみで満点が取れるような試験ではなく、町史などもサブテキストとして読んでいただくようにする。検定試験もただ試験をしてもらうのではなく、「金山マイスター制度」の創設なども視野に入れて行っていきたいと考えている。

５　委託事業の評価（総括的）

今回は地域の教育力強化を目的に行われたが、拠点作りやお宝集作りなどをする過程で地域のよさを住民自ら見つめなおしそれらを発信することで目的をある程度達成できたのではないかと思われる。アンケートの結果からも経済状況などの外的要因を見つめることから地域の伝統文化や行事、それらの情報発信へと内的要因を見つめなおすきっかけとして一定の効果が出たと思われる。

今後はそれらをもっと地域住民一人ひとりが感じるようにお宝探しなどの各拠点でのフィールドワークの実施や、町内外に向けての検定試験の実施などを行い、更なる地域力強化を図ることが求められる。

きらり・かねやま協議会委員名簿

氏　　名	勤務先・職　名	備　　考
樋　口　勝　也	金山教育委員会・教育長	協議会代表
佐　藤　　博	山形大学エリアキャンパスもがみ・事務局長	
遠　藤　長三郎	道草ぶんこう・運営委員長	
阿　部　由　美	ＷＡＧＥ☆スターズ事務局長	
井　上　秋　彦	北部商工会青年部金山支部長	
阿　部　一　代	北部商工会女性部金山支部長	
三　上　一　雄	金山町区長・公民館長連絡協議会・会長	
阿　部　利　広	金山まちなみ研究会会長	
松　田　順　一	金山町歴史資料館運営委員会	
庄　司　博　司	四季の学校運営委員会	

事務局

小　野　勇　一	金山教育委員会教学課長	
武　内　利　雄	金山教育委員会教学課長補佐	
沼　澤　尚　史	金山教育委員会教学課社会教育係	